



聖徳大学言語文化研究所主催公開講座

東アジアの中の音楽と 平安朝物語文学

日時 平成26年2月22日(土) 13:00~16:15

会場 聖徳大学10号館14階

千葉県松戸市松戸1169 JR常磐線・新京成線「松戸駅」下車、東口徒歩1分

定員 80名(事前申込不要)

後援 松戸市教育委員会、柏市教育委員会

参加費
無料

発表①

『うつほ物語』の音楽
—絵・説話・琴曲との関連—

正道寺康子

(聖徳大学短期大学部総合文化学科准教授)

<講師プロフィール> 聖徳大学短期大学部准教授。修士(文学)。専門は、平安朝物語文学。著書に『うつほ物語引用漢籍注疏 洞中最秘鈔』(共著、新典社、2005年)、論文に『『うつほ物語』の音楽と樹木神話』(『アジア遊学』126号、2009年)、『『うつほ物語』『源氏物語』と樹下弹琴図』(聖徳大学短期大学部国語国文学会『文学研究』24号、2013年)などがある。

発表②

遣唐使と音楽
—物語文学の七絃琴を中心にして—

原 豊二

(米子工業高等専門学校准教授)

<講師プロフィール> 米子工業高等専門学校准教授。博士(文学)。日本中古文学専攻。現在は『源氏物語』とその享受の研究、文学に表象される音楽文化の研究等を行っている。著書に『源氏物語と王朝文化誌史』(勉誠出版、2006年)、『源氏物語文化論』(新典社、2014年)、共編著に『東アジアの音楽文化[アジア遊学170号]』(勉誠出版、2014年)がある。

発表③

『源氏物語』明石一族の栄達
—楽の音と夢の連携がもたらすもの—

笹生美貴子

(日本大学文理学部非常勤講師)

<講師プロフィール> 日本大学文理学部非常勤講師。博士(文学)。専門は、平安朝物語文学。論文に「明石入道と「琴」と「夢」—書かれざる秘史—」(『日本文学における琴学史の基礎的研究(論考編)』2009年)、「源氏物語「明石一族」の意志—『古今和歌集』—〇〇三番歌引用を起点として—」(『中古文学』第82号、2008年)、「物語の夢—平安後期物語の夢に込められた『源氏物語』批評の意識」(『記憶と創生』物語研究会編 翰林書房、2012年)がある。

内容



山本琴谷画「王昭君図」
河本家稽古有文館蔵

『うつほ物語』や『源氏物語』に登場する楽器に「七絃琴」があります。この楽器の伝来はおおよそ遣唐使によるものと、これらの物語文学では説明されています。七絃琴は外来の楽器であり、しかも一条朝には衰退したとされていますが、平安朝物語文学にしばしば描かれ、主題と結びつき、重要な役割を果たしています。

発表1では、『うつほ物語』が古代中国の琴曲(音楽)や絵に描かれた音楽、説話等書かれた音楽をどのように取り入れ、俊蔭一族の秘琴伝授の物語としたのかを考えます。

発表2では、歴史上の遣唐使と音楽との関わり、また後代に描かれた平安朝物語文学での遣唐使の受容を考察し、その類似と相違を明らかにします。実際に演奏されなくなった後も、なぜ物語文学にだけこの「七絃琴」が描かれ続けたのかという問題を、東アジア全体を視野に入れつつ考えます。

発表3では、『源氏物語』で、明石一族の物語に七絃琴と夢とが関わるので、明石入道の夢の実現に七絃琴がどのように関わり、明石一族の物語を形成したのかを明らかにします。

東アジアの音楽との関連で平安朝物語文学を考えてゆくことで、物語形成の一端を解明できたらと思います。

お問い合わせ▶▶▶

聖徳大学言語文化研究所(知財戦略課)

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬 550

電話: 047-365-1111 (大代表)

ホームページ: <http://www.seitoku.ac.jp/kenkyujyo/gengo/>

